(2) キャリアサポート

(就職指導)

学生の進路選択に関わる指導の適切性 (A群)

近年、学生の進路は多様化し、就職以外の進路を選択する学生も増加しているが、同時に進路選択に悩む学生や就職後に仕事と自己の適性・理想との落差に悩む学生も増えている。

本学のキャリア形成支援は、学生が自己の生き方や進路について自ら考え、選択、決定する力や社会の環境・人間関係等に対応する力を涵養することを目的として、就職はもとより就職外進路についてもキャリア科目『大学生活とキャリアデザイン』の設置、国内大学院(約170研究科)募集案内、各種専門学校資料等の提供、「進学・留学」情報サイトへのリンク、就職外進路に関する個別相談等の支援を行っている。

特に自意識や就職意欲が希薄で、自らの進路について明確な判断や選択が困難な学生や就職のミスマッチにより早期退職する者等が生じないよう、社会で「働くこと」や「自立すること」についての理解、企業や職場についての知識・認識等を深めることにも重点を置く本学の指導は有効、適切であると考えられる。

単に高学年次における技術的就職指導のみならず、低学年次から人生や生き方について啓発し、考えさせるキャリア科目やインターンシップ、実社会で働く上で有効な各種の資格取得支援講座等のキャリア形成支援にも大きな力を注いでいる。

就職においては、約3,000社の求人情報、約30,000社の企業情報等を資料室およびインターネットで提供、さらに「就職活動にあたって」、「仕事観と職業観」、「自己分析」、「Uターン・自宅外就職」、「常識・マナー講座」、「業界・職種研究」、「求人票・エントリー・資料請求」、「履歴書・エントリーシート」、「面接・訪問」、「学校推薦・内定時の対応」等のガイダンス、「教員受験対策」、「公務員受験対策」、「業界セミナー(12業種15回)」、「模擬面接実習(約70名×6回)」、「学内合同企業セミナー(140社、全9日間)」等のセミナー、38名の内定者による「先輩相談会」、30名のOGによる「OG懇談会」、予約不要の個別相談、予約制での履歴書・エントリーシートの添削を実施、他方、年間約700社への企業訪問による求人開拓等により、常に100%の就職内定率を目標とし、目標に近い95%を超える成果を得ている。

また、単に就職内定率を高めることだけにとらわれることなく、学生の進路選択や就職決定先に関する満足度を高めることも大きな課題とし、毎年全就職決定者へのアンケート結果(回答者598名、回答率54.8%)で、「とても満足」が43.4%、「満足」が33.1%、「ほぼ満足」が19.2%で、「ほぼ満足」以上が95.7%と、高い満足度が証明されている。

さらに、卒業生の豊かで充実した人生と社会における活躍を目的に既卒者に対する職業

紹介や斡旋、相談等の支援も行っている。

学生の進路選択に関わる指導の適切性（A群）大学院

自己の進路について大学院進学時に一定の方向性を有していることが多いことは、大学院生の就職登録率や就職ガイダンス、セミナーへの出席率の低さ等からも推測できる。

また、多くの大学院生は研究の過程で指導教員の助言、アドバイスを得ながらより具体的に自らの進路を決定していく場合が多い。

就職を希望する大学院生からのキャリアサポートセンターへの質問や相談では、研究の専門性を生かせる職種に固執する場合も多い。就職と就職外進路の選択、決定に悩む大学院生には、大学院生自らの人生観や職業観に沿った幅広い観点から指導を行うよう努めている。

文系課程の大学院生は専門的職種を除いて学部生とほぼ同じ市場での活動になる場合が多く、活動の基本に関する指導は学部生と大きな違いはない。むしろ進路・就職に対する大学院生個々人の希望や考えについての個別指導に比重をかけることで満足度を高めている。

理系課程の大学院生は研究、分析、開発等の職種への志望が強く、専門的職種の求人開拓や業界研究、職種研究等の指導にも重点を置いている。

大学院生全体の数が少ないことや就職希望者（就職登録者）が学部生に比して大幅に少ないことから、ゆとりある指導の下で、一定の効果を得ている。

今後さらに指導教員とキャリアサポートセンターとの連携のもとに指導の効果を高めることが必要である。

また、企業等の高度専門職、研究職の採用に向け、大学院生の研究課題・内容・成果等を関連企業等に積極的に開示し、PRに努める必要もある。

就職担当部署の活動上の有効性（B群）

低学年次から実施している「人生」や「生き方」に関する授業やセミナー、講演等は、学生が大学生生活の過ごし方や学ぶ目的を考え、卒業後の将来を考える契機となり、「自立」ということを軸に「社会」、「働くこと」、「仕事」、「進路」などに関心を持つきっかけとなっている。

さらに、2・3年次生における資格取得支援講座、インターンシップ等の学習活動を通して、学生がより具体的、かつ現実的に「社会」、「働くこと」、「仕事」、「職業」、「就職」、「進路」等について体験し、実感し、理解を深め、知識と能力を高め、自立意識や就職意欲、進学意欲等を醸成している。資格取得支援講座受講生やインターンシップ体験学生の就職決定率が高いことや事後指導講義での実習生の報告等からもその有効性が証明されている。

3年次生の5月から翌年2月にかけて実施する各種就職ガイダンス・セミナーは、「早期化」、「厳選採用」という企業の求人活動と、学生気分が甘んじ、就職意欲が希薄な学生の落差を埋めるのに十分とはいえなくとも大きな効果があることは、4年次生となって活動する学生の著しい変容からも証明される。

このような就職支援行事以外に年間3,000件に及ぶ求人、30,000社に及ぶ企業情報、OGの活動体験記、Uターン情報等を掲載する本学独自の「就職支援WEBシステム」、3,000件に及ぶ企業ファイルや各種資料の提供、企業訪問、面接等の実習ビデオの放映、貸出し等が有効であることは、就職決定した学生の75%が利用していることから証明される。

また、对学生だけではなく、キャリアサポートセンター職員や就職アドバイザーによる年間約700社への企業訪問も継続的な求人や、新規求人の増加がその効果を証明している。

これらの諸活動は、就職を取り巻く状況の変化に柔軟に対応していく必要もあり、常に検証と見直しをしていくことも重要である。